④取組校インタビュー
ビジネスアイディア甲子園への「声」

考える、発想する、ということへの高校生たちのチャレンジを、どのような角度から育み、これからさらに伸ばしていくか。いろいろなテーマを持って熱心に取り組んでおられる先生方にご意見をお伺いしました。

生徒のチャレンジ精神、発想力は世の中を変える原動力

兵庫県立長田商業高等学校　校長
南谷雄司 先生

総合学習や課題研究の一環として、「地域と生きる」等の中で地域の課題解決に取り組んでいます。その解決手段として商品開発やイベント企画を作っていく必要があります。その動機付けに各種コンテスト等を活用しています。ビジネスアイディア甲子園に応募することで生徒自身が自分の生活を見てどのような工夫をしたらいいかという想像力が育っていくと思います。

アイディアの発想だけでなく生徒自身が成長できるコンテスト

京都府立京都すばる高等学校
貴島良介 先生

商品企画に取り組む授業の一環としてビジネスアイディア甲子園に応募することは、応募案に対して結果も返って来るため、生徒の学習意欲の向上に効果を発揮しています。アイディアを考えて発表する、受賞を目指すというだけに留まらず、経済の学習にも繋がり、環境や文化の学習、生徒達のコミュニケーションの育成の場、論理思考の場にも繋がるコンテストです。

遊び心が発明を生む！自分の考えを相手に伝える勉強に

大阪市立市岡商業高等学校
稲谷良隆 先生

「ビジネス基礎」と「商品の流通」の授業として取り組んでいます。自分のアイディアを文章にして外部の人に見てもらい、人前で発表するということは、とてもいい刺激になります。夏休みの生活の中で、ビジネスアイディアやビジネスチャンスを考えるきっかけになると思っています。

他者への優しさが受賞に
『やればできる！』と意欲向上

岡山県立岡山東商業高等学校
木村　隆 先生

「ビジネス基礎」の夏休みの宿題として出しています。2008年は「警報機付き点字ブロック」で準グランプリをいただきました。生徒の目線が困っている人へと向き、それが認められたのが嬉しかったですね。他の生徒も「やればできるんだ」と一層意欲的になりました。発想力や考えを文章でまとめる力をつける授業の一環として、大変役立っています。

社会に対する新たな視点が生まれる

大阪府　同志社香里中学校・高等学校
藤井宏樹 先生

ビジネスとは、世の中の「不」(「不幸」「不快」「不便」など）を取り除く一つの作業であって、その結果顧客に喜んでもらえれば報酬が得られるんだよ。そのような仕事を通じて社会に貢献できたら一番だよね。と生徒たちに語りかけながらこのビジネスアイディア甲子園に取り組んでいます。生徒たちはそれまで顧客視点だけでしたが、「今世の中で必要とされているのは何か」、「ビジネスにするには…」と、社会に対する新たな視点が生まれてきます。私はこのビジネスアイディア甲子園に取り組むことでそのことを生徒たちに気付かせたいと思っています。

コンテストに取り組むことで視野が広がり、総合力が身に付きます

大阪市立天王寺商業高等学校
佐々木秀一 先生

「起業教育」の授業の一環として、2005年から、ビジネスアイディア甲子園に応募しています。過去に準グランプリを受賞した生徒もおり、毎回意欲的に取り組んでいます。アイディアの発想に始まり、商品化の方法、流通、採算性などを調べ具体的にまとめあげ、授業中に各自が発表します。企画からプレゼンテーションまで総合的な能力が求められるため、将来、社会人として役立つ力につながると思います。

未来を予見する力を養う

滋賀県立大津商業高等学校
金子又広 先生

指導は、三つの段階に分けて行っています。第一段階は「楽しみを分かち合う」、「困っていること」など、顧客を見据えた日常生活の視点で生徒に考えさせます。第二

段階は指導者を交えてプラッシュアップを行い、異業種転用まで含めた視野や、利益計画などの経営者の視点からプランを見直します。最終段階はプレゼンテーションです。ここでは不要箇所を削り、できるだけシンプルで明瞭なものにすることに主眼を置きます。このような一連の取り組みは、現代の社会に垣間見えるわずかな「きざし」を紡いで、生徒自身が自らの興味関心を拠り所に、資料や素材を収集・分析・整理し、社会のニーズを合致する有益なサービスを考えるという探求的、総合的、教科横断的な学習です。

「気づき」「考え」「創造」させることにより、豊かなアイディアや想像力が生まれます

奈良県立五條高等学校
西　英樹 先生

三つのC「chance」「challenge」「change」を年頭に、ビジネス基礎や課題研究の一環として毎年ビジネスアイディア甲子園に応募しています。生徒には「常にビジネスの中には、チャンス（chance）がある！」と伝え、5W2H（When, Where, Who, What, Why, Houmuch）を基本に企画させています。つぎにアイディアをプレゼンテーションする場を設け、企画への意気込みや実現化に向けて計画を発表させます。ビジネスアイディア甲子園にチャレンジ（challenge）し、商業科の学習を基礎に、現代社会での問題点に「気づき」「考え」「創造」させることにより、豊かなアイディアや想像力が生まれます。また、コミュニケーション能力の向上や、将来社会人になるまでに自分を見つめ、社会を変える（change）「創造」力を育てることにも活用できます。

コミュニケーション能力の養成に役立っています

大阪府立門真西高等学校
齋藤　桜 先生

昨年度初めてこのコンテストに挑戦し、見事学校賞を受賞することができました。３年生の授業においてグループ単位で取り組ませたんですが、相手の意見を尊重しながら自分の意見も的確に伝えるということが難しかったようです。何度も意見交換をするうちにうまくコミュニケーションをとることができるようになりました。このコンテストは生徒たちが社会へ出た時に必ず必要となる「コミュニケーション能力」の養成に役立つと思います。グランプリ受賞を目指して頑張ります。

企画力・想像力を身に付ける

大阪府 好文学園女子高等学校

新木康世 先生

商業科の夏休みの課題研究として、第４回からこのコンテストに取り組んでいます。生活の中で「不便」や「不満」に感じることからアイディアにつなげるよう指導しています。本校のＩＴライセンスコースでは、MOS試験（マイクロソフトオフィスの実技認定試験）を目指し、１年生でワード、２年生でエクセル、３年生でパワーポイントを習得します。このような技術面に加え、相手にいかにわかりやすく視覚的に訴え、伝えるかという企画力や想像力を身に付けるためにこのコンテストを役立てています。これらの力を発揮、実践するために最終審査まで勝ち進みたいです。